

事業番号	10 04 05	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	県営林事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課	
		実施期間	S47～	E-mail	shinrin @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

県営林は人工林の約4割が60年生以上となっており、持続的な森林資源の利活用を行うため、主伐を計画的に進めていく必要があるが、木材価格は流動的であり、搬出のための林内路網が脆弱で維持コストがかかる上、傾斜が急な林分が多く搬出コストもかかることから、収益を上げることが難しい。また、ニホンジカやクマによる獣害が広がっており、適切な獣害対策を行わなければ植栽木は食害により枯死してしまい、林齢が高い立木にも剥皮被害による立枯れが進んでいる林分も存在している。

2 事業目的

持続的かつ自立した林業経営を図るため、伐期の多様化や適地適木による多様な森林の造成を行うとともに、林業分野に関する新たな課題や林業事業者からの要請に対応することにより、「地方林業の経営に模範を示し、もって林業の振興発展に寄与する」という県営林の目的の実現を目指す。

3 事業目的を達成するための取組

- ① 県営林の森林整備
 - 健全な森林づくりのために間伐を実施する。
 - 主伐後の適正な更新のため、再造林及び保育、獣害防除を実施する。
 - 生産される木材の運搬及び県営林の巡視を行うための路網の開設、改良、補修を実施する。
- ② 県営林生産物の販売
 - 県営林資源の有効な活用及び財源確保のため、主伐、搬出間伐により生産される木材を販売する。
 - 財源確保のため、まつたけ採取権や山菜などの副産物を販売する。
- ③ 県営林のCO₂吸収量をクレジット化して販売
 - 財源確保及び企業等によるゼロカーボンの社会づくりに貢献するため、県営林のCO₂吸収量をクレジット化して販売する。

4 成果指標

(推移の凡例 ↗ : 改善 ↘ : 悪化 → : 変化なし — : 数値なし)

No.	指標名	単位	R3年度		R4年度		R5年度		R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	県営林間伐面積	ha	38	30	↘	24	↘	68	未達成	間伐が必要な林分を調査し、5か年計画を作成し、目標値としている。	
②	県営林生産物処分材積	m ³	3,975	8,743	↗	3,041	↘	24,500	未達成	伐期に達しており、主伐可能な林分を調査し、5か年計画を作成し、目標値としている。	
③	J-クレジット販売量	t-CO ₂	86	12	↘	14	↗	30	未達成	R5年度に最大限販売できる見込み量を目標値としている。	

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 (★印が付いているものは主要目標)	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
1-1⑩	持続可能な脱炭素社会の創出	★民有林における造林面積	ha	2021 (R3)	277	2022 (R4)	318	2023 (R5)	434	2027 (R9)	1,000

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)			
R5年度	0	349,130	△ 109,963	239,167		229,255	4.0
R4年度	0	338,517	△ 95,785	242,732		230,761	4.0
R3年度	7,387	342,943	△ 82,663	267,667		256,318	4.0

事業番号	10 04 05	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	県営林事業		部局	林務部	課・室	森林づくり推進課

7 主な取組実績と成果

① 県営林の森林整備

県営林の森林整備について、現地調査と併せてGISデータ等を活用することで森林の現況を効率的に把握し、上田管内で1件、諏訪管内で1件、上伊那管内で2件、南信州管内で2件、木曽管内で1件、松本管内で1件、長野管内で1件、計9件の森林整備を実施した。森林整備の実施範囲等の情報はGISデータ化することで、県営林の効率的な管理に繋げることができた。

② 県営林生産物の販売

佐久管内で1件及び長野管内で1件の主伐を実施し、上伊那管内で1件及び南信州管内で1件の搬出間伐を実施した。また、他事業で伐採した立木を販売する伐倒木処分事業を長野管内で1件実施した。

これにより、3,041m³の立木を販売し、約15,100千円の収入を得た。



県営林における主伐実施地

③ 県営林のCO₂吸収量をクレジット化して販売

令和6年2月にJ-クレジット制度事務局に対して、県営林J-クレジットプロジェクト登録地における森林のCO₂吸収量の認証を申請し、令和6年3月の認証委員会において956t-CO₂の吸収量が認証、クレジット化された。

J-クレジットの購入申込が3件あり、計14t-CO₂のクレジットを販売した。これにより、231千円の収入を得た。

また、令和6年3月には10t-CO₂クレジットを購入いただいた団体に対し、長野県県営林J-クレジット創出プロジェクト協力団体認証書の贈呈式を実施した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	県営林間伐面積	R4年度推移	↓	R5年度推移	↓	達成状況	未達成
5年間で156haの間伐の実施を目標とし、令和5年度においては68haの間伐を目指して保育間伐・搬出間伐を実施していく予定だったが、施業方針を間伐から主伐に変更した箇所が生じたことにより、間伐実施面積は目標値を下回った。							
指標②	県営林生産物処分材積	R4年度推移	↗	R5年度推移	↓	達成状況	未達成
5年間で67千m ³ の木材生産の実施を目標とし、令和5年度においては24千m ³ の木材生産を目指して主伐・搬出間伐を実施していく予定だったが、路網の被災や入札不落により計画通りに事業を実施できない箇所が生じたことにより、木材生産量は目標値を下回った。							
指標③	J-クレジット販売量	R4年度推移	↓	R5年度推移	↗	達成状況	未達成
令和5年6月に開催されたJ-クレジット制度認証委員会において約5,000t-CO ₂ の吸収量が認証、クレジット化されたことを受け、近年にクレジットを購入いただいた、もしくは購入希望があったが残高不足でお断りした7企業・団体に対し、クレジットの販売を再開した旨を通知することで販売の促進を図ったが、購入に至ったのは2団体に留まり、販売量は目標値を下回った。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

県営林における主伐について、令和5年度は2件実施したところだが、県営林のGISデータを分析すると、主伐適地であると思われる箇所は数か所存在する。木材市場において、バイオマス燃料等の一部用途で木材需要が高まっており、県営林からの木材生産も期待されているところだが、県営林における本格的な主伐の実施例については未だ少なく、安易な主伐は災害等の原因となる可能性がある。令和4年度に策定した第11次県営林管理経営計画において、主伐実施の方針を定めており、主伐が災害等の原因とならないよう現地において詳細な調査を行い、適切に事業を実施する必要がある。

(2) 事業改善の方策

主伐の計画・設計方法について研修を開催する。

主伐予定地の現地調査に本庁職員が同行する等のフォローを行い、適切な主伐が積極的に実施されるように改善を図る。

事業名	県営林事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
-----	--------------	----	-----	-----	----------

細事業 No.	細事業名			R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
1	県営林事業			256,318 千円	230,761 千円	229,255 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）			
1	県営林の森林整備	委託	森林整備（植栽・保育・搬出間伐等）及び路網施設事業（改良）を入札により発注し、実施した。 保育間伐：15ha、搬出間伐：9ha、獣害防除：6ha、路網改良：59m			
2	県営林生産物の販売	直接	主伐及び搬出間伐により生産された木材を入札により販売した。 立木及び伐倒木処分：3,041m ³			
3	県営林のCO ₂ 吸収量をクレジット化して販売	直接	1990年以降に間伐した箇所の森林によるCO ₂ の吸収量を国が認証するJ-クレジット制度により、県有林において認証されたJ-クレジットを販売した。 J-クレジット販売：14t-CO ₂			